

(案)

参考資料②

沖縄県地域公共交通協議会

第3回協議会 議事要旨

日時：令和6年3月21日（木）

14:30～16:30

場所：沖縄県市町村自治会館ホール

第2回協議会での主なご意見について

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none">第2回協議会での主なご意見を踏まえた修正内容について意見はあるか。	<ul style="list-style-type: none">意見なし。

県民意見及び沖縄県地域公共交通計画（素案）について

発言者	質問・意見	回答
琉球大学 池田委員	<ul style="list-style-type: none">公共交通ネットワークの拠点性を発揮させるためにも、乗換えるための拠点づくりが重要で、自宅から拠点までの移動手段は、フィーダー型の公共交通に加え、クルマもある部分は使っていく構造を考えていくべきではないか。観光客の多くが北部までレンタカーで移動しているが、観光客に利用しやすい公共交通が不十分なためと考えている。そのためにも基幹バスや長期的な鉄軌道も見据えた拠点をつくり、レンタカーを含めた交通の結節機能を持たせ、観光客が公共交通やレンタカーを上手く利用できるシステムを作ることが重要ではないか。	<p>(中村会長)</p> <ul style="list-style-type: none">欧州ではモビリティハブという言葉があり、幹線的な公共交通の拠点で色々な乗継や駐車、カーシェアが利用できる体系がある。現在国でもリ・デザインの中で全体の体系を構成し直してメリハリをつけていくという議論も行っている。交通については、空間構成も考えながら適材適所で上手く当てはめていく形を考えていく中で、沖縄では自家用車やレンタカーの使い方についても必要な見直しを行いつつ、良いところは残していくことが重要である。

発言者	質問・意見	回答
琉球大学 神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 通勤手当認定者という言葉はわかりにくいので、何を意味しているのかを注意書きで書いて欲しい。 ▪ 路線バス無料化の実験については、この計画の中でしっかり記載した方が良いのではないか。 ▪ 基幹バスやフィーダーバスの目指すサービスレベルを記載できないか。難しいようであれば今後の検討予定や考え方を記載するなど、次年度からこの件を考えてもらうための表現を加えていただきたい。 ▪ 那覇、胡屋、名護等の広域的な拠点以外の国頭、大宜味、浦添、宜野湾などの地域拠点は持つべき拠点の特性が違ふと考えられる。例えば商業施設や保育園の共同送迎等、様々な機能や特性はそれぞれの市町村で考えて欲しいのでそれを読み取れるような表現等を入れておいていただきたい。 ▪ 観光消費額はレンタカー利用者の方が多い。公共交通を利用して沖縄を楽しめ、消費額が高くなる観光も考えていけないといけない。そのためにもレンタカーを使っていない人たちの観光行動を把握できる調査を今後検討していただき、観光客に適した公共交通のあり方検討に繋げていただきたい。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ▪ 記載方法は検討していきたい。 ▪ 現在予算審議中でもあるため、記載については庁内で調整していきたい。 ▪ どこまで記載できるか事務局で検討していきたい。 ▪ 地域拠点における日常生活を支援する機能の検討は施策 12 で記載している。また施策 6 に関連して北部・中部・南部の各交通連携会議で結節点について議論しており、今後具体化に向け取り組んでいく予定である。 ▪ 観光関連施策は施策 14～17 で記載しており、この施策の中で考えていきたい。また情報サービスやデータ連携については施策 22 で示しており、次年度以降関係機関等とも連携しながら取り組んでいきたい。

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域拠点に関連した施策 12 の文章は少し表現を工夫した方が良い。 ▪ 施策 22 は、情報提供の前にきちんと継続的にデータを取っていくことが、その後の政策の評価 PDCA を回していくときにも基本となる。短期的な様々なトライアルをした際の評価にもなるため、少し文言は表現を工夫して欲しい。 ▪ 路線バス無料化の実験は同じ意見なので、検討して欲しい。 	
浦添市 新垣委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 北部テーマパークは、1日1万人の観光客を見込むとの発表があったが、国道 58 号線がまた一段と混雑する懸念がある。この点についてはどのように考えているのか教えていただきたい。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 北部テーマパークについては県でワーキングチームを立ち上げて、色々議論させていただいている。 ▪ 事業者との意見交換の中では、例えば高速バス利用して北部まで誘導する、あるいはリムジンバス、貸切バスで高速道路を利用する等が出ている。 ▪ 国道 58 号線を通過する交通も当然可能性として考えられ、今後ワーキングの中で通過交通の課題を議論させていただきたい。

発言者	質問・意見	回答
<p>沖縄総合事務局運輸部 星委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 北部テーマパークは来年夏ぐらいから順次開業と聞いており、交通結節点や道路整備の計画も着実に進めているところである。 ▪ さらに那覇から名護までは1時間で船で行けまるため、それらを含めて色々な対策を打つことで有効に観光客を北部にも運ぶ効果的なネットワークを構築していくことが必要と考えている。 ▪ さらに那覇インターや西原インターなどに集中しないように小禄道路の整備も進めており、基幹バスあるいは高速ネットワークの整備などを連動させた形でサービスの再編をし、周辺自治体や皆様の御協力をいただきながら、しっかり支え、生活交通と北部振興を両立していきしていきたいと考えている。 	
<p>沖縄県企画部 谷合委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ この計画は、まず基本的な大きな柱を記載させていただいているが、必ずしも課題全てがこの中で細部まで網羅できていないものと考えている。 ▪ このため、今いただいた視点については、引き続きこの公共交通計画の中でもPDCAのチェックの中で何が足りないのかということも含めて運営していきたい。ぜひご理解のほどよろしくお願ひしたい。 	

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 5年ベースの計画としても、その途中で条件が変わってくる。そのため状況が変わったら、素直に見直すということが大事である。 ▪ 広域的な道路の課題、運送事業全体に関わる課題、そして都市の課題が見えてくれば、その時それに合わせてこういう施策を少し強化する或いはこれを追加するなど、皆さんで議論して直していくが重要である。 	<p>(県企画部 谷合統括官)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 県としても協議会の皆様とも色々ご協力いただきながら取組んでいきたい。
沖縄総合事務局運輸部 星委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 沖縄県に来訪される観光客の50%が美ら海水族館に行っていると聞いている、 ▪ 北部テーマパークができた場合は、北部への滞在時間や宿泊日数は伸びていくことを実現していくものだと思っており、そういう中で環境や社会に悪影響がないよう調和のとれた観光ができるように我々としてもしっかりと注視していきたい。 	

発言者	質問・意見	回答
<p>中村会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 今国で日本中の地域公共計画の取組みを調べているが、自治体の方々と県の方がきちんと同席している中で、それが上手く機能していないところもいくつかあるが、今の件で県と地方自治体とで一緒になって議論していくということがお約束できたってことはとても良いと思う。 ▪ 開発者負担という議論があり、東京の例ではある鉄道を引く際、鉄道沿線の土地の値段が上がるので、その部分は少し鉄道整備とか維持管理にお金を回すということがある。交通の話をいろんな開発の事業と分ける必要は全然なく、全体として経済が回ってくる中では、様々な可能性がまだあると思うので、マイナスなことができるだけ起きないよう、且つどうせならプラスなことが沢山起きるように仕掛けをしていただくことが良いと個人的には思っている。 ▪ 路線バス無料化の実験について、もう少しご説明が欲しい。計画への記載方法など少し工夫がいると思う。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 路線バス無料化の実験時期は6月に実施する方向であり、より多くの利用者、県民の方に知っていただくことが重要なため、趣旨も含めて計画の中で記載する方向で調整したい。

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 路線バス無料化の実験は、熊本や佐賀などで実施しているが、実験をやるのが大事ではなくて、実験をきっかけに、何をしようとしていくのが大事である。今回の実験をきっかけにして、こういうふうにしていきたいというところまで書かないと本当は計画としては足りないと思う。 ▪ 今の段階で書けることはそれで全然構わないが、願わくば、その無料の話をそれによる人々の意識とか公共交通の見方とか、こう変わってそれをどう拾い、次にどうしていったって、どの辺を目指していくのか、そこがないとやっぱりいけないと思う。 ▪ 熊本の話を聞くと、バスターミナルと商業施設ができてその初日車で大混乱するのを避けなければならぬ事情があって、地元のバス事業者の方々が音頭を取ったという経緯がある。 ▪ 沖縄でもどういう意図でやってそれを指すのか、それはこの地域公共交通計画の施策18の思いとどう繋がってるかわかるようにして、それをこう進めていくというところまで考えて、さらにここに反映していくという流れがあるのでないかと思うので参考にして欲しい。 	

発言者	質問・意見	回答
<p>琉球大学 神谷委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 路線バス無料化の実験はそれが目的ではなくて、きっかけ作りである。佐賀では効果が継続しているとも聞いている。沖縄でも10年以上バス乗ってないという県民が多いので、そういう人たちに1回乗ってみてもらい10年前と全然違うからということを含めて経験してもらおうことが重要である。 ▪ 県が大きな予算でバスのプロモーションするだから、バス事業者は全面的に協力的であるという認識は持っている。 ▪ であるならば、6月に実験を実施する前の5月が天候や曜日別にどういう利用状況で、無料化した時どのように利用者が増えたのか、変わらないのか、増えたのであるならば、その後どれだけ効果が継続しているのかということ、データ取っておかないと指標としてやっているところの結果の解釈もできなくなる。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 沖縄県でアンケートを見ると、バスは時間かかる、不便といった意見がある一方、そもそも車が便利だから、バスのことを考えたこともないという意見もある。このためそう言った方々にも、この事業をきっかけにバスに乗っていただくのが重要かと考えている。 ▪ また、平日通勤や通学する方が乗る場合、さらに休日に乗る方もいると思うので、平日と休日に分けて、週に2回程度のひと月間ぐらまずは実施したいと考えている。 ▪ データについては、雨の時は車が多くなるため、今回は梅雨時期を避けて、夏休みの前くらいを考えている。 ▪ また、道路のデータについては、国道あるいは県道等の様々な道路管理者とも協力をいただきながら整備していきたい。さらにアンケートも取っていくことを考えている。 ▪ OKICAを持ってない方たちの利用も考え、どのようにして人数をカウントしていくか等は、バス事業者といろいろ検討させていただきたい。 ▪ 最終的に次の様々なバスの政策に生かしていくようなデータの取り方も検討しながら、今回事業を実施していきたい。

発言者	質問・意見	回答
<p>琉球大学 神谷委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 今回多くの予算をかけて実施する実験なので、どれだけの方がバスを使うようになったとか、どのくらいの人が車から乗り換えたのか等、本当は細かく知りたいが細かくはもちろん知れない中、少なくともバスの利用者数が、こういう実験をやると何ヶ月ぐらい効果があるのか、1年経っても効果があるのか、というところは把握しておく必要があると思う。 ▪ そういったことをこの計画にどこまで書けるかは別であるが、沖縄県でやった場合こういうことはモニタリングするぐらいは対応していただきたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ どこまで記載できるかは検討させていただきたい。
<p>琉球大学 神谷委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 例えば、高校がある何番の系統について普段平日、休日で一日何人利用しているのか、それが路線バス無料化の実験を実施することでどう変化して、さらにどう続いているかを把握していかないと効果計測はできないと考えている。 ▪ 従って、実験実施の前段階からバス事業者から系統ごとのデータとして提供していただいて、実験を実施したことによる効果をきちんと説明することが重要ではないか。そのデータや効果については、この会議でも説明していくことが必要になってくると考えている。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ データについては、バス事業者とも連携しながら、どのようなデータをとっていくか検討させていただきたい。

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線バス無料化の実験をどう準備して、どう実施して、どう分析して、どう繋げていくかといった中身の部分は様々あると思うが、大事なことは沖縄の地域公共交通にとってはすごく大事な話であるので、書ける範囲での入れ込みが重要であり、例えば 2 年後に読んだ人が、わからない、知らないといったことがないよう配慮をお願いしたい。 	
カリー観光 鹿川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇空港の混雑に関しては、3 階部分でもレンタカーの不適切な貸し渡しや県民の送迎車の乗りつけがあり、バスの定時性が保てない一因と考えている。 ・ このため、路線バス無料化実験時には、空港に向かうマイカーを少しでも公共交通に振り分けられるのであれば、幾分混雑の解消にも寄与できる部分があるのではないか。 ・ また空港に行く場合は公共交通の方が安く利用でき、送迎しなくても本人だけで行けるような政策を検討いただきたい。 ・ 併せて空港の混雑対策については、警察の協力も得られるのであれば、一般車両の流入を規制するなどの政策を検討いただきたい。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇空港については、空港施設管理者、道路管理者、交通管理者も含めて、別途協議会の中で議論しながら検討していきたい。 ・ 路線バス無料化の実験は、ひと月の内の平日休日合計 8 日程度であるが、できるだけバス利用を促すよう県民には広報していきたい。

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 空港の混雑については、空港管理者やバス事業者も含めて連携していただきたいが、適正な空港施設のアクセス機能の使い方や、その中での公共交通の充実や拡充を目指すという方向で施策14の文章は少し工夫して欲しい。 ▪ 資料2のN036（骨格軸を誘導する公共交通体系）の軸については、道路とか鉄道の沿線に様々な土地利用が集約されて形成されていく軸という見方が一般的である。このため軸は市街地や土地利用と共に形成されていくので、行政側や開発をする側が一緒になり、且つ交通側との相乗効果を持って空間的に誘導する意味合いがあるので文章は修正をお願いしたい。 ▪ 資料2のN037-38（目標達成に向けた施策・事業）については、日本の運輸事業者は他の民間企業のように完全に競争という訳ではなく、競争する場面と協調する場面（独禁法の特例等）があるため、民間事業者が独自の知恵で頑張る部分と少し一緒に揃える部分の視点を文章で表現しても良いのではないか。 ▪ 交通弱者という表現は、移動困難者あるいは移動制約者の言い方にしてほしい。 	

発言者	質問・意見	回答
琉球大学 池田委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 資料 3-1P93、P109 のネットワーク図に関して、西海岸と東海岸を繋ぐ部分（宜野湾～西普天間～沖縄市、うるま～恩納村等）は重要ではないか。 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 西海岸と東海岸のネットワークについて、現在市町村との交通連携会議の中でも課題として共有化され議論しているところであり、引き続き議論を進め将来ネットワーク図に記載できるように持ってきてみたい。
琉球大学 神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ クルーズ対応については何か記載はあるのか？ 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 施策 15-2 でクルーズ船寄港における交通手段確保の検討を記載している。
沖縄総合事務局運輸部 星委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 沖縄県の地域公共交通計画においては、皆様にご参画いただく中でこのような議論をしていただいていることに心より感謝申し上げますと共に、皆様と一緒に実効性を確保し、実現の加速に貢献するよう県と一緒に頑張っていきたい。 ▪ 今年度から交通リ・デザインの取組み進めており、交通そして社会の持続可能性を高めるための移動交通を実現するため、幅広いステークホルダーの方々と地域社会のあり方、交通のあり方について再デザインをしていくということが求められている。 ▪ 来年度も県の取組みと一緒に、取組みをさらに拡充し、経済界の方々の力添えもいただきながら、全県的な県民を挙げた動きとして、今回策定いただく計画の実効性を上げるための取組みを、一緒に進めていきたい。 	

発言者	質問・意見	回答
中村会長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 本日いただいたご意見については、今後個別に調整し、私が確認した上で最終的な計画として反映させる形で進めたいと思うが、よろしいでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 異議なし。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 参考資料 2 のわった～バス利用促進乗車体験事業について説明 ▪ 4 月以降に広く周知いただきたい。 ▪ 資料 3-1 の P129 のとおり、今回の計画に示し施策・事業は、この法定協議会において PDCA サイクルに基づき、着実に推進し必要に応じ適宜見直しを図っていくこととしている。 ▪ 次年度は P130 のとおり、6 月下旬以降に本協議会の開催を予定しているので、委員の皆様方におかれましては今後とも、ご協力のほどよろしくお願いしたい。 ▪ 以上で沖縄県地域公共交通協議会第 3 回協議会を閉会する。 	

以上